

折尾地区総合整備事業における 公共事業再評価等の実施について(報告)

1. 概 要

折尾地区総合整備事業は、折尾駅を中心とした既成市街地を、学園都市や北九州学術研究都市の玄関口にふさわしい地域拠点として再整備するため、連続立体交差事業や街路事業、土地区画整理事業を一体的に行うものである。参考資料1

H16年度の事業着手以降、10年以上が経過し、H37年度の事業完了に向けて折り返した。

その中で、連続立体交差事業については、H29年1月に鹿児島本線の高架への仮線切替を行い、大きな節目を越えたところである。

連続立体交差事業は、街路事業や土地区画整理事業の工程と密接に関連しており、折尾地区総合整備事業を進める上で「要」となっていることから、H34年度の完了に向けて、確実に進捗させていくことが重要である。

一方で、事業費については、人件費や資材単価の高騰等による影響、現地の施工条件等を踏まえた工法の見直し等に伴い増加することから、全体事業費の見直しが必要となった。

については、折尾地区総合整備事業について、当初計画に変更が生じたため公共事業再評価等を行うものである。

2. 折尾地区総合整備事業の見通し

(1) H37年度における事業の見通し 参考資料2

- ・連続立体交差事業 : H34年度完了
- ・土地区画整理事業 : H37年度完了
- ・道路整備 : 駅周辺の幹線道路、補助幹線道路、区画整理区域内の道路等の整備が約8割完了(側道は除く)
残りの道路については、今後整備する駅周辺の状況を踏まえ、再検討

これらにより、土地区画整理事業が完了するH37年度で、

- ・踏切除去による交通渋滞の解消、地域分断の解消によるまちの一体化
- ・駅や駅前広場整備による乗換え利便性の向上
- ・密集市街地の解消による住環境の改善や防災性の向上 など

当初想定した事業効果が概ね発現する見込みとなる。

(2) 事業費

| | 当初(億円) | 変更(億円) |
|------------------------|--------|-----------------|
| | 事業費 計 | H16～ H37(概成) |
| 連続立体交差事業 (JR九州負担含む) | 350 | 487 |
| 連続立体交差事業 (市負担のみ) | 315 | 440 |
| 街路事業 | 280 | 157 |
| 土地区画整理事業 | 196 | 196 |
| 合 計 (市負担のみ) | 791 | 793 |
| 合計 (JR九州負担含む) | 826 | 840 |

(3) 連続立体交差事業の増額要因 参考資料3

| 要因 | 増額 |
|--|---------|
| ①全国的な動向に係る要因 (人件費、資材単価等の高騰による影響 など) | 40 億円増 |
| ②現地の施工条件を踏まえた工事内容の変更等に係る要因 ・ 既設構造物の撤去工事(騒音に配慮した工法に変更) ・ 工法変更等に伴う調査設計費、電気設備工事の増額 など | 39 億円増 |
| ③安全対策に係る要因 ・ 道路交差部(折尾中間線、日吉台光明線)桁架設工事 (仮設桁上でのコンクリート桁の製作・据付工法に変更) など | 23 億円増 |
| ④地域色を出すための景観対策等に係る要因 ・ 新駅舎のデザイン変更、防風スクリーン、ホーム上屋等の景観向上費の追加 など | 21 億円増 |
| ⑤地質・地形等、詳細調査の結果による工事内容の変更等に係る要因 ・ 西折尾法面切土、地盤改良の追加 など | 14 億円増 |
| 合 計 | 137 億円増 |

3. スケジュール (案)

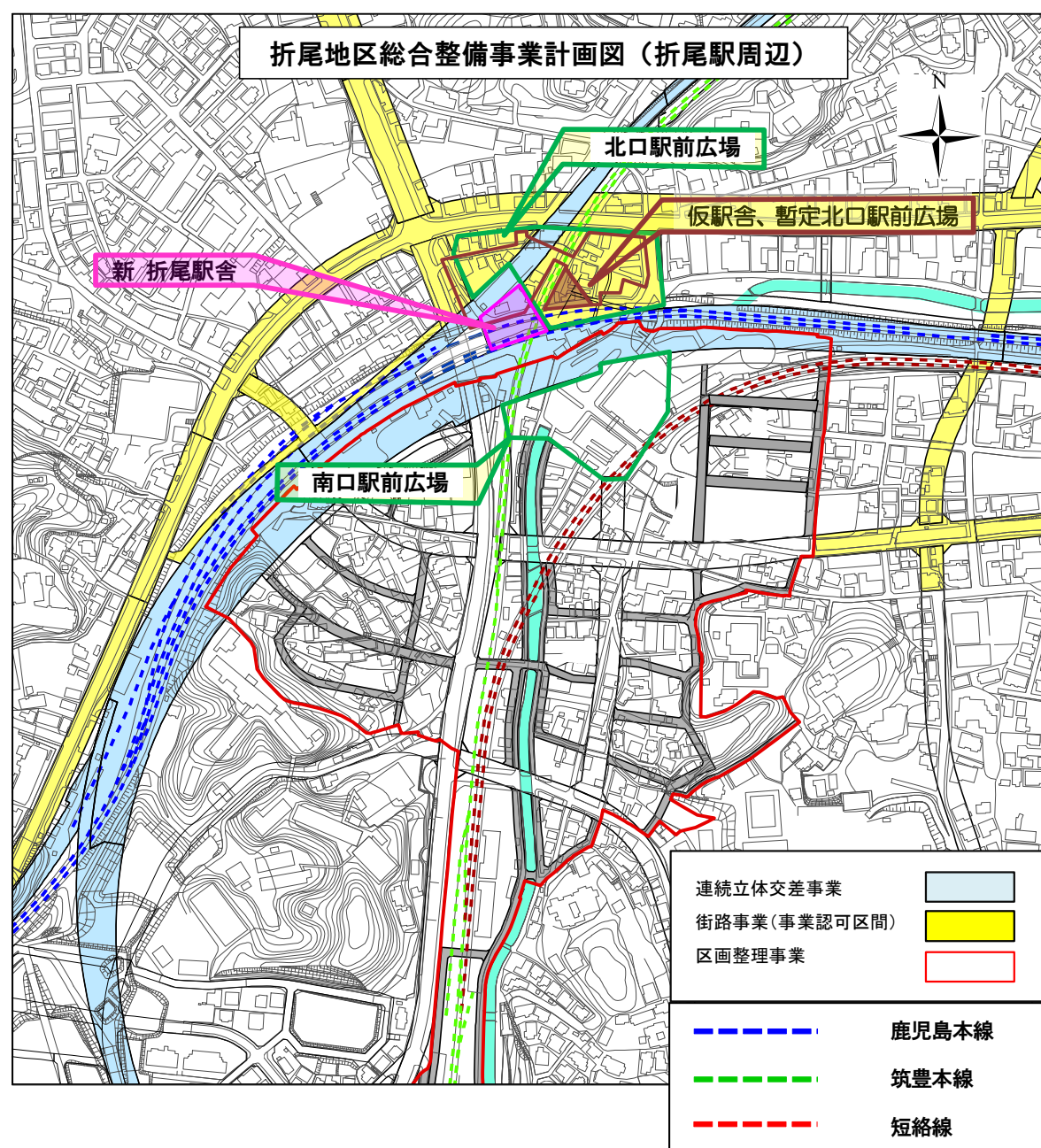
| | |
|---------|---------------------|
| H29年 5月 | 公共事業再評価に関する検討会議 |
| H29年 6月 | 市民意見の聴取 (パブリックコメント) |
| H29年 7月 | 国への予算要望活動 |

折尾地区総合整備事業 事業概要

■折尾駅を中心とした既成市街地を学園都市の玄関口にふさわしい地域拠点として再整備するため、

- ・鉄道の高架化やトンネル化を行う「連続立体交差事業」
- ・幹線道路の拡幅や駅前広場の整備などを行う「街路事業」
- ・住環境の改善を目指す「土地区画整理事業」

を一体的に実施する『折尾地区総合整備事業』を計画し、平成16年度から整備を進めており、平成37年度の完成を予定している。



事業効果

効果1

「9箇所の踏切」が除去

- 街路事業及び連続立体交差事業により幹線道路が改善されます。
- 人とモノの流れが安全でスムーズなまちが実現します。

現状



整備イメージ

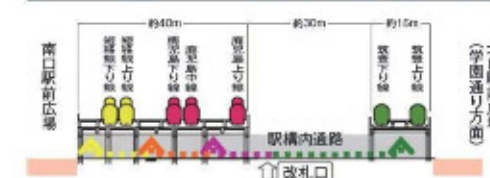


安全でスムーズな道路(バリアフリー化した快適な歩道)

効果2

駅や駅前広場の整備による 交通結節機能の向上

- 鉄道とバスの乗り換えや、送り迎えなどがスムーズになります。
- バリアフリー化の推進により、すべての人が利用しやすい駅や駅前広場となります。



(事例)スペースワール駅 コンコース

効果3

土地区画整理事業による「住環境の改善」

- 宅地や区画道路の整備により土地利用がしやすく防災性に優れた住環境が整備されます。

現状



道路が狭く防災上多くの課題

整備イメージ



消防車・救急車が迅速に通れる区画道路

効果4

民間投資の促進や地域の活性化に 大きく寄与し、活力のあるまちが実現

- 駅周辺がまちの顔として一新し、新しく生み出される高架下の空間を活用することで、まちづくりの可能性が広がります。



駅周辺の民間開発プロジェクト例(折尾警察署跡地)



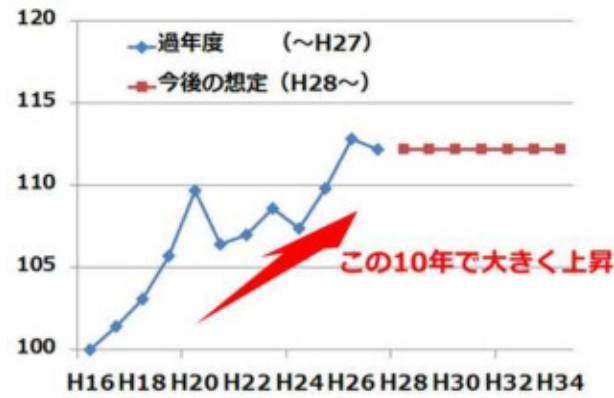
新しい駅前広場等で地域のイベントを実施予定

連続立体交差事業の増額要因について

①全国的な動向に係る要因 約40億円増額

●全国的な建設需要の拡大に伴う、**人件費や資材単価の高騰**

建設工事費デフレーター
(人件費、資材単価等)の推移



②現地の施工条件を踏まえた工事内容の変更等に係る要因 約39億円増加

- 騒音に対する**地元からの苦情**等を踏まえ、**既設構造物の撤去工事を騒音に配慮した工法に変更**
- 工法変更等に伴う調査設計費、電気設備工事の増額 など

工法変更や工事の増加に伴い、調査・修正設計等の業務も増加
土木工事が増加した結果、夜間工事に伴う電停止等、
関連する電気工事費が増加



現況：既設構造物(左写真：折尾中間線ボックス、右写真：折尾停車場線ボックス)



撤去工法の変更

③安全対策に係る要因 約23億円増加

●道路交差部の**桁架設工事**

地元からの要請や警察と協議した結果、通行止めせずに車両を通しながら工事を行う必要があったため、仮設桁を架設し、その上でコンクリート製の桁を製作・据付ける等、工法を変更 など



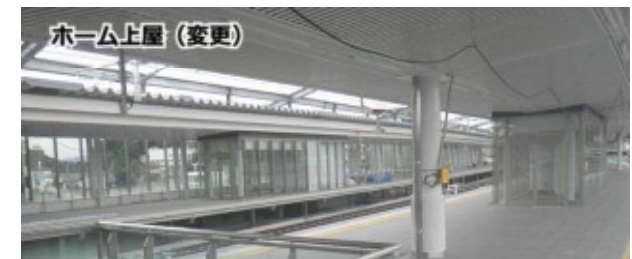
工事桁架設状況



桁完成状況

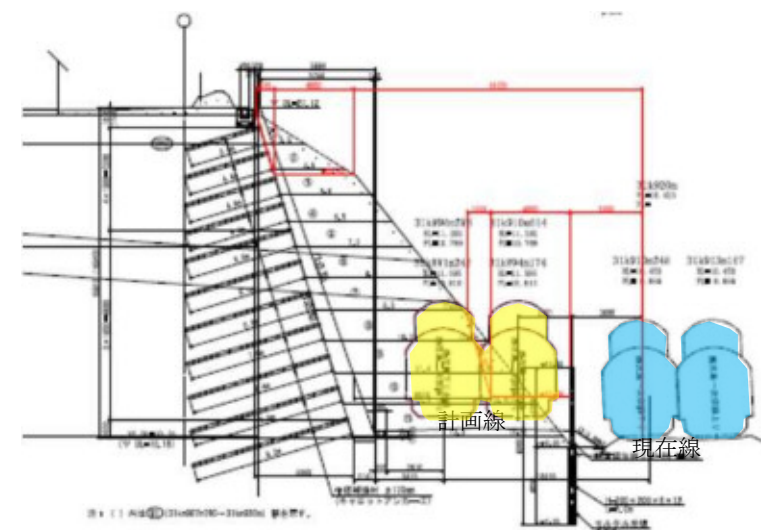
④地域色を出すための景観対策等に係る要因 約21億円増額

●地元や学識者からの**新駅舎や高架橋デザインに関する意見**等を踏まえ、**駅舎デザインの変更及び防風スクリーンやホーム上屋の景観対策を実施**



⑤地質・地形等、詳細調査の結果による工事内容の変更等に係る要因 約14億円増額

●地形測量後、**アンカー工法では施工が難しいことが判明し、鋼管杭直壁工法に変更** など



当初：法面アンカー工法



変更：鋼管杭直壁工法